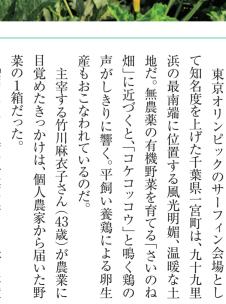
感動したんです野菜の香り、味、鮮度に宅配箱を開けたとき どんな農業なのだろう この人の農業って

竹川 麻衣子 さん を近くにしたいという希望 が聞こえるように」との願い。そして食卓と畑 いのね」の由来は「菜の音」のこと。「野菜の声 年間50種以上を作る少量多品目栽培。 有機無 農薬野菜と平飼い養鶏の自然卵。農園名の「さ 千葉県長生郡一宮町 さいのね畑



辰業との出会い



に驚いて感動したんです 箱を開けた時の野菜の香り! 味と鮮度

る宅配野菜だった。 と、そんな暮らしに危惧を抱いて静岡県富 食品に頼る荒っぽい食生活だった。ある日ふ 没頭する日々で、もっぱら外食や出来合いの れた一室でパソコンに向かって映像の仕事に 士宮市から取り寄せたのが、有機栽培によ 当時は20代後半。東京・立川のビルに囲ま

おいしい料理になるのだろう、と悩んだ。頭 届いた野菜たちを前にして、どうやったら

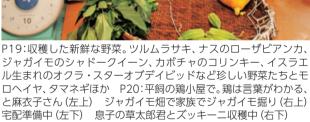
たから、すべて初体験で衝撃的だった。 を使って料理を発想することなんてなか

があることを知った。新鮮でした 菜を通して、季節に自分を合わせる生き方 だ』 ぐらいしか感じなかったんです (笑)。野 「それまでは『今日は暑い、寒い。今日は雨









「農業」ってどんなことをやるのだろう。 一宅配農場で農業体験をした。スポーツ





農園の5周年記念に、ラップのミュージックビデオ 「さいのね IN DA FARM」を製作。支えてくれたお客さんや研修生たちも参加して記念撮影

宮海岸は自宅から車で3分ほどの距離。麻衣子さんは、気分転換に時々散歩して海を眺めたりすることもあるという(下)

砂が多くてキラキラしているんです」 ないのではないかと不安を覚えたという。 正反対だったことだ。「砂場と思うほど海の 木と比べると、粘度もぼろぼろ。野菜が育た 驚いたことは、栃木県と一宮町では、土が 水はけがよすぎて、最初里芋は育たなかっ ミミズがいっぱいいるふかふかな土の栃

ら借地。約2・7%になる。

畑は、探し回って10人ぐらいの大家さんか

いうことになる。

こではおいしくなくて作るのを諦めた。しか

た。栃木で作っていたタマネギの品種は、こ

ことで、生きていることを実感できた。シン をしたことのない麻衣子さんは、力仕事で汗 気づいたのだ。 プルに健やかに生きられる道があることに かくうれしさを体感。土を触るのも初めての

少量多品目栽培を開始

の家が空く偶然に巡りあって、一宮町に移住 が潰れるなどの被害を被った。たまたま親戚 ところが大雨の後、土砂崩れによってハウス 町に住まいを借り、独立就農に踏み切った。 たのは2009年。1年間の研修の後、茂木 栃木県茂木町で研修生として農業を始め

ンの有機農業生産者としてはパイオニアと のトマト農家だけ。この地での露地栽培メイ ない。米作り農家とハウスメロンや冬期出荷 ち並ぶなど、周辺に露地農業の専門者はい したのは、14年のことだ。 町は、海沿いにカルフォルニア風の家が建

するという印象は少ないのでは、と語る。 し適正の品種選びをすれば、土が味を左右

抜けていくので、緑肥をすき込んだり、有機 なことが基本にはあると思うんです」 れに加えて、野菜の旬、おいしさのベストタ イミングの採りどきなど、土よりもっと重要 「この土に向いている品種はあります。そ 1年に1度の堆肥を入れても半年ほどで

物質を育てて土に入れたりしてきたが、ここ



夫の英識さんと息子の草太郎くんと。草太郎くんは野 菜の音色を聞きながら成長してきた

返してきた。緑肥を使うより、ここの土地に 刈り込み、トラクターですき込むことを繰り 数年来、野菜が育ち終わると草を生やして 感している。 自然に生えてきたものを土に返した方がい ってみて、土壌に変化がきざしているのを実 いのではないかという考え方だ。7~8年経

るようになったと、自分でも思います」 「野菜が作りにくい土地でした。よく作れ

> きちんと作れる品種を選ぶ。 年間生産するのは、約60品目。おいしくて

いものを加えていく。 よかったものを絞りつつ修正しながら新し 耳慣れない野菜も多いが、データをとって、 「少量、多品目で栽培しているんです」

いることが多いかしら 「自分で食べてみたいと思うものを作って

も夫婦2人では回っていかない。研修生は頼 ら、細かく味見しながら見極めるそうだ。 畑は、何カ所にも分散しているので、とて 採りどきは、食べてみないとわからないか

営のノウハウのすべてを明らかに伝えるこ いった。彼らには、生産から販売まで農業経 る。すでに10余人もの農業生産者が巣立って れる存在で、年間2~3人を受け入れてい ら研修生を育てているのだ。 とにしている。自分たちの経験を生かしなが

野菜の声を届ける

宅配便で家庭に送られる。現在は、9割が個 土曜日着と週2日が出荷日だ。 人客で、1割が飲食関係。水曜日着、または 「さいのね畑」の野菜はセットにして、定期

な意味があるのだろう。

を志した原点でしたから」 「個人のお宅に届けたいというのが、農業

かな内容に驚いた。スーパーや普通の八百屋 が、常にベースとなっている。 筆者がお試し便を依頼したところ、個性豊 1箱の野菜の鮮度に感動した最初の経験

ではみかけない品種が入っている。オカノリ、

コスレタス、フェンネル、カーボロネロ……。 プにもどうぞ」と。初めて味わう野菜の喜び わくわくしてしまう。どうやって食べよう、 は格別だ。 ってある。「炒めると美味です。ときにはスー と首を捻っていると、小さなラベルが袋に貼

ない。卵は、鳴いていた彼らが産んだものだ と思うと愛おしい。 な状態。畑の例の砂粒など、一粒も入ってい 届いた野菜は、きれいで素晴らしく清潔

の野菜は鶏が食べてくれるんです。 処分します。中側も虫をチェックします。そ るので、びっくりされるほどの量をはがして 「野菜の外葉は傷んでいたり虫がいたりす

に循環型農業なのである。 はん」。彼らの鶏糞は、畑の肥料になる。まさ 平飼い150羽は、国産鶏種の「岡崎おう

く、作り手の顔がすぐ傍らに見える。 「さいのね便り」も同封される。野菜だけでな さいのね畑― 1カ月に1度、作り手の近況を知らせる ―「さいのね」って一体どん

に音楽の音色のように」という作り手なら で、「野菜の声が聞えるように畑で奮闘して ではの思いが込められている。 心と体に響く野菜を家庭に届けたい。まな DJをやっていた英識さんの命名だそう 「野菜の音色なんです」と麻衣子さん。

す。それが「さいのね畑」の野菜箱だ。 ふたを開けるや、野菜たちが歌を歌いだ (片柳 草生/文 河野 千年/撮影